

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100244		
法人名	医療法人社団 輔仁会		
事業所名	グループホーム ゆいまーる松川		
所在地	那覇市松川 301番地 3F		
自己評価作成日	平成29年 8月25日	評価結果市町村受理日	平成29年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=4790100244-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年 9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なるべく薬に頼らないケアを目指しており、睡眠は日常の活動の充実や、それぞれの生活歴からの生活パターンを理解する事で、睡眠導入剤を服用せずに良眠につなげている。 又、高齢者の排泄困難の原因を探り、特徴を把握する事で、独自のマッサージ法により便秘薬を服用せずに排便に繋げている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は利用者と向き合い、日々心穏やかに過ごせるよう理念に基づいたケアを実践している。利用者の思い出の場所や本人が生まれ育った地域に出かけたり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。利用者のwish day(その人の思いを叶える日)を設け、日頃から本人の思いや意向を聞きとり、その人らしい暮らしが実現できるよう努めている。アセスメントは毎月実施し、一人ひとりの状態変化等を確認し、新たな課題がある場合は、見直しを行っている。家族面会時や運営推進会議等で家族の意見を聞き、要望やアイディア等、利用者本人のより良い暮らしにつながるよう介護計画に活かされている。利用者の生活背景の理解に努め、人生の先輩であることを日頃から意識し、言葉使いにも気を付けている。職員は、居室やトイレ、浴室に入室する際は、必ず声掛けし利用者尊重を意識した対応を心がけている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成29年11月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の為に尽くすとはどうゆう事か、職員各々が考えられるような機会として、毎朝の申し送りの際に暗唱している。	理念は、開所時に聖書の言葉を基に管理者と法人課長と一緒に作成している。理念は職員のしやすい場所（玄関、事務所、廊下）に掲示している。職員ミーティングや申し送り時等に話し合いながら理念を共有し利用者に寄り添い思いを大切にして実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所8年という事もあり、入居者の重度化が進んでいる状況もあり、これまでのような日常的な交流が困難な状況ではあるが、出来る限りつながっていられるような取り組みは、同法人内の地域包括支援センターとの連携や、デイサービスとの連携において継続している。	利用者と職員が複合施設内デイサービスの行事（保育園児との交流や民謡ショー等）に参加している。近隣住民からタオルや果物等の差し入れがある。管理者は地域の子ども食堂へ出かけ地域との相互関係づくりのため情報収集を行っている。事業所職員が地域活動等へ参加する機会づくりの検討が期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の家族や、入所の相談に来られた方に対応に苦労されている方、時には面会に来られたご友人に対して支援の方法を話したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回評価に対しての取り組み状況の報告はしているが、実際意見をいただく事は少ない。	運営推進会議は、利用者や家族、行政担当者、自治会長が参加し2か月に1回実施されている。事業所の活動報告や事故報告等も行われている。地域との交流方法等の意見や話し合いがされている。会議案内は文書を発送し、議事録は閲覧できるようファイリングされ、玄関近くに置いている。2か月分の利用者の様子を写したDVDを最後に見てもらい次回の運営推進会議で意見や助言に活かせるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に、那覇市の担当職員参加してもらったり、定期的なグループホーム連絡会に参加する事で協力関係が築けるように努めている。	市町村との連携については、運営推進会議での情報交換や管理者が介護支援専門員を兼務しており、介護保険情報収集や更新等で行政窓口を訪問している。研修会等の情報はメールで案内がある。災害時や虐待等緊急時の受け入れについては、法人が対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成29年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、身体拘束についての勉強会を行っている。 特に、身体拘束の「スリーロック」について重要視するように日ごろから取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践については、事業所内で身体拘束の勉強会を開催し、職員ミーティング時に話し合っている。転倒防止や安全確保のためセンサー対応の利用者については、抑圧感を招かないよう工夫し、家族への説明も行なわれている。夜間帯もエレベーターは作動しているが1階の玄関は防犯上施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待におけるコンプライアンスルールを利用し、事業所独自で学び、これまで把握していた虐待の概念を変える事で、視点が細やかになり、虐待を見過ごさないように注意を払っている。	虐待の防止の徹底については、虐待防止に関連する法人研修に職員が参加し、事業所内においても勉強会を開催している。ミーティングの中で権利擁護として、人権や権利について話し合いをしている。職員は利用者が安心して生活できるよう、接遇面にも配慮した声かけを行うよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キーパーソンが高齢になり、支援が困難になるであろうという状況に先んじて、青年後見人制度の情報提供を行い制度利用につなげた。 学ぶスタンスは、これまで通り、利用者と後見人との橋渡しを行う中で行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、なるべく2名以上の家族に参加してもらえようとしている。そして契約に至った場合には、ゆっくりと時間をかけて、重要事項や契約書の説明を行い、疑問点はないか細目に質問できる機会を設けながら、納得して頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口の見やすい場所に意見箱を設置したり、窓口を設け意見が聞ける状況を整えている。 家族からの意見や要望は、面会時に聞くようにしている。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、入浴時や夜間、ドライブ等において聞き取りを行うようにし、自宅訪問や外出の機会を増やす等に反映している。家族からは来所時や運営推進会議、担当者会議等で聞く機会としている。3か月に1回、個人用家族便りを発送し、家族へ利用者の様子を情報提供している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成29年11月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや朝の申し送りに併せ、申し送り帳とそれぞれを利用し、職員全員が意見を出せるようになっていて、意見や提案に対しては、柔軟に受け入れ、反映できるように努めている。	職員からの意見や要望は、職員ミーティングや普段から意見を聞くようにしている。「事業所専用の車両がほしい」や、敬老会をデイとの合同ではなく事業所独自でやりたい等の意見があり、今年度は敬老会を独自で実施し、車両購入については法人に相談している。職員間で、利用者の睡眠確保における夜間使用パットの種類や交換方法等を話し合い、日々のケアに反映させている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全員を正規雇用としている。 年間2回の人事考課で、実績や努力点を評価できるシステムとなっている。 又、自己評価に対しては、目標の設定をしてもらい常に向上心を持って働けるようにしている。	就業環境の整備については、人事考課の導入で年2回の個人面談を実施している。運営推進会議や職員ミーティング等は職員全員参加とし、休日出勤の職員は代休で対応している。宿職職員を配置したことで、夜間職員の精神的安心感や休憩時間の確保が可能となる環境整備がされている。健康診断も年2回実施している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれが苦手とするところは、日々の業務や面談にて把握するようにしている。 本年度より、部署独自の勉強会を多く取り入れていて、グループホームとしてのピンポイントでの勉強会を2か月に1回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、那覇市グループホーム連絡会への参加と、他事業所の管理者に運営推進委員会に参加してもらったり、こちらから参加したりし、交流の機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談後、自宅へ訪問したり、デイサービスやショートステイ先へ面会に行き、話をうかがったりして、抜かりない情報収集に努め、サービス導入時に不安を最小限に止めるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談時に、家族の不安や困っている事を見極め、本人だけではなく、家族も安心してもらった上で入所がスタートできるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけて本人や家族の話しに傾聴し、双方にとって一番良い結果につながるようにしている。 入所はいたしかたない状況においても、なるべく現状の維持はしていきたいとの要望に対しては、極力近い状況下で入所生活が送れるように、環境を整えられるように努めている。 双方の思いに相違がある場合には、入所ありきの考えに偏らないようにアドバイスする事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な介護をしないように常に心がけるように、出来る事は一緒に行うようにしている。 又人生の大先輩としての意見を伺ったりして、日常の中での何気ない出来ごとを、一緒に考えたり話したりして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症という病気の理解をしてもらう事から始め、家族で出来る事への過剰関与のないようにし、共に本人を支えられるようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や、昔馴染みの方が訪ねてきた場合には、インフォーマルな関係が構築できるように支援している。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、wishday(その人の思いを叶える日)に職員の送迎で墓参りや通っていた花屋等に出かけている。利用者の友人の送迎で毎月の模合に参加したり、以前利用していた通所サービス事業所を訪ねる等の交流も継続できる支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に、極力テレビは置かないスタンスは継続中。 個々の状態に合わせつつも、席や活動に配慮したり、会話の誘導を行いコミュニケーションがとれるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、転居先の施設へ面会に行ったり、メールにて家族の相談にのったりして、必要に応じて支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族とのコミュニケーションを密にする事で、本人の入所前の暮らしぶりや、趣味、嗜好を把握し、その中でケアとして提供でき得る事に関してはWish Dayとして実施する事もある。	日々のケアの中で本人の希望や意向、要望等アセスメントを実施し、本人の気持ちを大切にしている。困難な場合は日々の行動や表情、仕草等で把握に努め、家族から情報を得ている。家族の要望で、骨折後のリハビリや拘縮予防で訪問マッサージを利用している。回想法の取り入れから、子供時代に食べた駄菓子をおやつで提供し利用者から「懐かしい、嬉しい」と喜ばれる実践をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の相談時の情報を基に、日々の生活の中で補足できるように、本人との対話にの中から情報収集できるように、職員各々独自の方法でコミュニケーションをとり、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を、時系列的に記録する事で、現状を把握するようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と入居者一対一での担当制とし、問題が表出した場合には、担当者が問題提起し、意見が出せる様にしている。又、結果は介護計画書に反映している。	利用者・家族の思いや意見は、サービス担当者会議や日頃の関わりの中で聞き、毎月のモニタリングを実施している。状態変化等にはケア方法の検討を行い計画の見直しをしている。日々の介護記録簿に介護計画が添付され、支援目標や内容が確認できるように工夫し、介護記録を日常的に共有する支援ができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の会后記録は、基本的には職員全員が記録するようにしている。 日々の記録は介護計画書に反映出来るような記録用紙にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を把握する事で、必要時の病院受診の付き添い、日用品の補充、帰宅の支援等柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室や、商店、利用可能な場所へはなるべく行くようにしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は全員、同敷地内にあるクリニックを主治医とし、定期受診や健康診断、緊急時の対応をしてもらい常に連携がとれるようにしている。	利用開始前に本人、家族へかかりつけ医の継続等の意向確認を行うと共に本人、家族の同意を得て、利用開始後は協力医に変更している。他科受診は基本家族対応であるが、必要時は職員が同行支援を行っている。受診時は家族に対して情報提供し、受診結果は家族から口頭で受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成29年11月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護の配置はないが、法人内の他部署の看護師が対応できるように、日頃から情報の提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も、変わらぬケアを心がけていて、面会もまめに行うようにしている。 又、常入院先の相談員や担当看護師に、情報を求め、早めの退院に繋げている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、事業所として出来る事の説明を行い、事前に確認所をかわしている。 又、家族との話し合い、希望を確認する事で、出来る限りの対応ができるように努めている。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、契約時に重度化や終末期に向けての確認書を交わしている。昨年、家族の強い希望で終末期の利用者の看取りに向けて準備を行ったが、最終的には医療機関での対応となった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練としては、誤嚥事故や転倒事故が起きた際の初期対応の訓練を行っている。 法人内では年1回、救急救命の講習会を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、事業所全体として、年2回行っている。又、グループホーム独自で夜間想定訓練も行っている。	災害対策について、隣接する複合施設合同の避難訓練を年2回（昼・夜）行っている。複合施設を利用している地域住民の来所日に合わせて訓練を行うことで、訓練当日に地域住民の協力を得ている。備蓄は複合施設の母体となる施設に備えてあるが、災害時の備蓄の受け渡し等について、具体的な取り決めを期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成29年11月16日

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(16) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いの中から出てくるような言葉使いに対して、職員各自が日頃から意識し、気をつけるようにしている。 又、常に人生の先輩である事を念頭に、尊敬の態度で接するようにしている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、就寝前の着替えや入浴を嫌がる利用者には、利用者本人の気持ちに配慮し、行動の意味を考え、利用者のペースに合わせた援助を心がけている。利用者の職歴や生活環境を考慮しながら言葉かけを行なえるよう、管理者が日々の介護の中で職員と話しあっている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話から、希望や思いを引き出せるように工夫をしながら会話を行っている。 なるべく、生活の全てを自己決定できるような支援をしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般を、個々の主体性や自主性によって決定できるように支援を行っている。 又、寡黙な中からも、表情などから本人の思いを感じ取れるように努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選べない状況にある方は、持っている服の様子から好みを把握し、メリハリをつける意味でも起床時、就寝時には必ず着替えを行うようにしている。おざなりになりがちな更衣を管理者が常に指摘する事で、清潔かつおしゃれに過ごせる様にならしている。		
40	(17) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けは入居者と共に行っている。食事の制限がある方もいて、毎回とはいかないが、好物の食事を家族に差し入れしてもらったり、職員と一緒に調理する事もある。	食事は三食とも複合施設からの配食となっている。利用者の嗜好調査を年に1～2回行い、献立に反映させるよう努めている。利用者が自由にお茶を飲めよう急須の設置やコーヒーを飲んで過ごしたり、もやしの下ごしらえをする利用者もいる。職員は、利用者と同じテーブルで持参した弁当を食べている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成29年11月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量はその都度チェックしている。水分の摂取がうまく出来ない方には、ゼリーにしたり、とろみ粉を用いるなどして不足がないようにしている。 食事に関しては極端に食思が悪い場合には、栄養補助食品を用いるなどして補充ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にお茶を飲んでもらい、うがいや入歯の洗浄も行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックはまめに行い、パターンを把握した上で、定期的な声掛けと促しをしている。 状況に合わせて、機能低下につながる要因となり得る場合には、紙パンツ使用を綿の下着に替えて頂く事とし、自立ができるような支援も心がけるようにしている。	排泄の自立支援について、過剰介護や利用者の機能維持ができるよう、介護計画書に排泄時の細かい介助方法（脱衣やふき取り等）が明記されている。便秘の対応では、食事や水分摂取、臀部マッサージ等を行い下剤が不要になった事例がある。排泄の自立支援に向けて本人の訴え時、定時でのトイレ排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排泄のパターンを把握した上で、便秘薬は使用を最低限に抑え、なるべく運動やマッサージでの排泄ができるようにしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の支援は毎日行っていて、基本的には本人の希望で入れるようにしている。 訴えが困難な方にかんしては、2、3日に1回は入れるようにしている。	入浴を楽しむことができる支援については、入浴日を設定せずに、本人の好きな時間や希望に応じて毎日支援している。事業所がシャンプーやボディーソープ等を準備している。。同性介助を基本としているが、出来ない場合には、利用者に了解を得て支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成29年11月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えがあれば、何時でも休息がとれるようリビング内にソファを多めに置いている。夜間も安心して眠れるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書は、職員全員が目を通すようにしている。入居者それぞれがの担当職員が薬の管理とセッティングを行う事で、薬の名前や効能を把握できるようにしている。薬に関しての勉強会として、薬剤師を講師としての勉強会も行っている。	服薬支援については、与薬は職員でダブルチェックを行い、誤薬を防ぐように対応している。薬については薬剤師による勉強会を実施し理解を深めている。整腸剤や認知症薬等の服薬後の利用者状況を医師に報告することにより、処方薬の種類や量を減らすことにつながった事例もある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事は制限せず、柔軟に対応するように支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所としては、最低でも週1回は外出の機会が持てるようにしている。又、家族にも外出の協力はして頂いている。外出が厳しい方に関しては、施設の周辺を散歩したりして、外気に触れる機会が持てるようにしている。	日常的な外出支援については、法人施設による配食の受け取り時に利用者も出かける等で外出の機会としている。往復約40分の車中で利用者の意向を知ること多い。利用者の家族の家に行ったり、馴染みの店に行ったりと可能な限り外出できるように努めてはいるが、事業所専用車がないため、利用者のニーズにこたえる外出ができないこともある。	法人所有の車両が使用できるよう相談しながら、利用者のニーズに対応できる体制も含め、日常的な外出支援の実施を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は家族が行っているが、外出の際におこずかいとしてお金を所持した場合には、買い物の支援も行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月16日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は好きな時に掛けられるように、事業所用の携帯電話を使用してもらっている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清潔を保てるように、遅番の職員が毎日拭き掃除や、椅子テーブルの洗浄を行っている。 季節を感じられるように、ホーム内あを、その時期に合わせて飾り付けをするようにしている。	居心地のよい共用空間づくりについては、利用者が気持ちよく生活できるよう、職員は毎日掃除を行っている。共用スペース兼交流室は、ソファが多く設置され、人の気配を感じながら日中の仮眠がとれる空間となっている。壁や天井に季節ごとの装飾を施しているが、利用者個々の好みや馴染みのもの等が少ない空間づくりである。	季節感のある掲示等の工夫は見られたが、家庭的な雰囲気での利用者の馴染みのもの等による居心地の良い共用空間づくりを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを4つ設置していて、何時でも思い思いに寛げるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの状況を考慮しつつ、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	居心地よく過ごせる居室の配慮について、利用者の動線を考慮した上で、椅子を利用して起居時の転倒防止の工夫をしている。置時計や衣装ケース等、日常的に使用するものを持ち込む人もいるが、自宅からの馴染みの物の持ち込みは少ない。収納スペースが少ないため、購入した紙おむつ等がそのまま置かれている状態である。	利用者が安らぎが得られるような馴染みの物が、環境づくりに欠かせないことを家族に理解してもらい、協力を求めることが望まれる。日用品を目に触れないところに置けるような収納スペースの工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすくしたり、自室までを分かりやすくするなどして、なるべく自立した生活が送れるようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム ゆいまーる松川

目標達成計画

作成日 : 平成 29 年 11 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点・課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	開所8年が過ぎ、当初の状況と現状との相違を鑑みながら、理念の見直しをする必要がある。	現状に合った理念を作成する。	・職員全員で理念の作成をする ・開所10年までには確立できるようにする。	12ヶ月
2	10	家族の意見や要望を気軽には無して頂ける仕組みの必要性。	意見や要望を聞く機会が日常的にある。	・対話の中から気軽に意見や要望を聞けるような雰囲気作りに努める。 ・定期的にアンケートできるような方法の確立。	12ヶ月
3	52	居心地よく暮らせるような工夫。	仮定的な雰囲気の創意工夫が必要である。	・日常の中での季節感を感じられるような空間を入居者と一緒に行う。 ・個々の好みをアセスメントし、家族の協力のもと居室作りをする。	12ヶ月
4	55	各部屋の収納方法を考える	少ない収納スペースを工夫し有効活用する。	・衣替えの時期には、家族に協力してもらい、なるべく衣服を自宅に持ち帰って頂く。 ・乱雑にならるように、担当制での居室の整理整頓を徹底する事で、乱雑な状況を作らない。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。